

令和5年度 立川市立柏小学校 全国学力テスト等の結果分析

1 全国学力テストの結果分析（4.18実施）

① 各教科の調査結果

	国語		算数	
	柏小	全国	柏小	全国
平均正当数	9.5	9.4	10.3	10.0
平均正当率	68	67.2	64.0	62.5

② 観点別の調査結果

A：観点別

	知識・技能		思考・判断・表現	
	柏小	全国	柏小	全国
国語	68.3	68.9	67.0	65.5
算数	69.6	67.2	57.3	56.5

B：学習指導要領の領域

【国語】

観 点	領 域	柏小	全国
知識・技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.6	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.2	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項		
思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	74.2	72.6
	B 書くこと	36.4	26.7
	C 読むこと	70.1	71.2

【算数】

領 域	柏小	全国
A 数と計算	68.8	67.3
B 図形	48.0	48.2
C 測定		
C 変化と関係	72.7	70.9
D データの活用	71.6	65.5

いずれの教科も平均正答率が全国平均と同等もしくは少し上回る結果であった。国語科では「書くこと」が、全国平均を大きく上回っている。しかし、「読むこと」には課題が見られる。学力テストでは、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方が理解できているか」が問われている問題に課題が見られた。この課題を解決するためには、関連のある言葉にはサイドラインを引かせて、その関係性をはっきり把握させながら読み取っていく授業を展開していくことが必要である。また、情報量が多い問題は、何が聞かれているのかをきちんと捉え、情報を取捨選択して解答する力が要求される。家庭学習の音読も含め、再読しながら読み取りを深めていく指導を行っていく。

算数科では、図形領域に課題が見られた。三角形について傾きが違っても底辺と高さが変わらなければ、面積は変わらないことに気付けない児童や、問題解決に必要な辺の長さに惑わされる児童がいた。授業では、三角形の意味や性質を教えるだけでなく、「平行な二つの直線の幅はどこでも等しいこと」→「その二本の線に挟まれた三角形は高さが変わらないので、底辺が等しければ面積は同じであること」を児童自身が気付くという、本質を問うような学習展開を心がけていく。

2 ベーシックドリル診断テストの分析 ※網掛けは本校の課題と思われる領域

【第2学年】

	領域	正答率	領域	正答率	領域	正答率
正答率 高	B 量の比較	80.6	A 3口の計算	83.9	B 形づくり	91.4
正答率 低	C 時刻	45.2	A 文章題	48.4	A 数の構成	49.5

【第3学年】

	領域	正答率	領域	正答率	領域	正答率
正答率 高	A かけ算（九九）	68.9	A 立体の部分の名称	72.6	A 分数	87.7
正答率 低	D 表とグラフ	3.8	A 文章題	28.3	C 単位換算（長さ・かさ）	33.0

【第4学年】

	領域	正答率	領域	正答率	領域	正答率
正答率 高	A 小数、たし算、ひき算	78.6	A あまりのあるわり算	81.4	A 分数のたし算	90.0
正答率 低	C 時刻と時間	32.9	B 球体の部分の名称	37.1	A かけ算	41.4

【第5学年】

	領域	正答率	領域	正答率	領域	正答率
正答率 高	A 分数の表し方	82.0	A 小数の表し方	90.0	A 小数のたし算	94.0
正答率 低	D 折れ線グラフ	18.0	B 立方体、直方体、ものの位置	41.0	A □、△などを用いた式	42.0

【第6学年】

	領域	正答率	領域	正答率	領域	正答率
正答率 高	B 図形の合同	74.2	A 小数のわり算	77.5	A 分数のたし算	82.0
正答率 低	C 単位量あたりの大きさ（人口密度）	13.5	C 速さ	22.5	D 帯グラフや円グラフ	38.2

どの学年も「A 数と計算」領域の正答率は高く、基本的な計算の仕方は身に付いていると考えられる。しかし、「文章題」「□と△などを用いた式」に関しては、どの学年も課題が見られる。これは、題意を読みとり、立式はできるが、具体的な問題場面から図に一般化する際につまずきがあると考えられる。帰納的に考えられることができるように、具体から一般化していく流れをどの授業でも意識して取り入れていく必要がある。

また、「割合」「人口密度」「速さ」の単元で、「基準量」「比較量」「割合」の関係性を捉える際に混乱してしまう児童が多い。特に「速さ」の学習の際、単位を変換してそろえて答えを導き出すことに課題が見られる。さらに、立式できても計算ミスや四捨五入、誤った単位で答えるなど、正答にたどり着くまでいくつものハードルがある。繰り返し問題を読ませ、何について求める問題なのか考えさせたり、答えの見通しをもたせたりしてから解かせるような学習展開を心がけていきたい。

そして「グラフ」の問題にも課題が見られる。個数を数える際に落ちないようにチェックマークを付けること、1目盛りが何を表しているのかを確認すること、グラフから比較量を求めるために「単位量あたりの大きさ」の単元の復習を入れることなど、学年に応じたポイントを整理し、指導していくことが必要である。

また、低学年では、「時刻と時間」に課題が見られる。授業での指導時間が少ないので、毎時間、授業のはじめに時計を読む活動を取り入れたり、学校生活の経験を時間の観点で他教科の中でも扱ったりしながら補っていくようにする。